

混成原子軌道の n 次元への一般化

木戸冬子¹, 細矢治夫², 時田澄男¹

¹ 埼玉大学工学部 (〒338-8570 さいたま市桜区下大久保 255)

² お茶の水女子大学 (〒112-8610 文京区大塚 2-1-1)

【緒言】3次元空間を越える n 次元空間上の原子軌道は細矢論文[1-4]で定義されているが、これを混成原子軌道に拡張している研究はない。本論文では規格化直交条件を n 次元空間に適用して、混成原子軌道の一般式を求め、数学的体系化を行うことを目的とした。

【方法および結果】

本研究では、 n 次元目の軸は、 $n-1$ 次元空間の全ての軸に直交する幾何学的な n 次元空間を扱うものとし、0次元空間は頂点(Vertex)、1次元空間は稜(Edge)、2次元空間は面(Face)、3次元空間は胞(Cell)で表す。

n 次元空間の混成原子軌道の式は、空間次元の n と式の番号 m によって $\chi_{n,m}$ で表す。 n 次元空間においては、sp混成軌道は1次元の sp^n 、 sp^2 混成軌道は2次元の sp^n 、 sp^3 混成軌道は3次元の sp^n 混成軌道としてとらえる事ができる。

同様に、s原子軌道は0次元の sp^n 混成軌道としてとらえる事ができる。1, 2, 3次元の sp^n 混成軌道は規格化直交条件の下で求められている。3次元を超える高次元空間の sp^n 混成軌道を同様に、規格化直交条件下で求めた。これらの sp^n 混成軌道の式に規則性として、一般式(1)を次のように見出した。

$$\chi_{n,m} = \frac{1}{\sqrt{n+1}}s - \sum_{i=1}^{m-1} \frac{1}{\sqrt{(n+2-i)(n+1-i)}}p_i + \frac{\sqrt{n-(m-1)}}{\sqrt{n-(m-2)}}p_m \quad (1)$$

ただし、 $n=0, 1, 2, \dots; m=1, 2, 3 \dots n, n+1$ である。

n 次元空間においては、 sp^2d 混成軌道は2次元の $sp^n d^{n-1}$ 、 sp^3d^2 混成軌道は3次元の $sp^n d^{n-1}$ 混成軌道としてとらえる事ができ、sp原子軌道は1次元の $sp^n d^{n-1}$ 混成軌道としてとらえる事ができる。1, 2, 3次元の $sp^n d^{n-1}$ 混成軌道は規格化直交条件の下で求められている。3次元を超える高次元空間の $sp^n d^{n-1}$ 混成軌道を同様に、規格化直交条件下で求めた。 n 次元空間の $sp^n d^{n-1}$ 混成軌道の式に規則性として、一般式(2), (3)を次のように見出した。 $1 \leq m \leq 4, n \geq 1$ のときの $sp^n d^{n-1}$ 混成軌道の一般式：

$$\chi_{n,m} = \frac{1}{\sqrt{2n}}s + (-1)^{m-1} \frac{1}{\sqrt{2}}p_{x_i} + (1 - \delta_{m1}) \left\{ (-1)^{\lfloor \frac{m-1}{2} \rfloor} \frac{1}{2} d_{x_1^2 - x_2^2} \right\} - \sum_{k=3}^n \frac{1}{\sqrt{2k(k-1)}} d_{x_k^2} \quad (2)$$

$m \geq 5, n \geq 3$ のときの $sp^n d^{n-1}$ 混成軌道の一般式：

$$\chi_{n,m} = \frac{1}{\sqrt{2n}}s + (-1)^{m-1} \frac{1}{\sqrt{2}}p_{x_i} + \sqrt{\frac{l-1}{2l}} d_{x_l^2} - \sum_{k=l+1}^n \frac{1}{\sqrt{2k(k-1)}} d_{x_k^2} \quad (3)$$

ただし、この2つの式において、 $l = \left\lfloor \frac{m+1}{2} \right\rfloor$ である。

n 次元空間の sp^n 混成軌道の式から、 n 次元空間と配位数、Vertex, Edge, Face, Cell、幾何学的構造(Geometrical structure)、結合角 θ の関係を表1にまとめ、Vertex, Edge, Face, Cellそれぞれについて、 n 次元空間との関係を一般式で表した。その結果、 sp^n 混成軌道が式の数と同じ数のVertexを持つ n 次元空間の n -simplex [5-7]と対応する (sp^n 混成軌道の角度の一般式である)ことを発見した。同様に、 n 次元空間の $sp^n d^{n-1}$ 混成軌道の式から、 n 次元空間とVertex, Edge, Face, Cell, Geometrical structure、結合角 θ の関係を表2にまとめ、Vertex, Edge, Face, Cellそれぞれについて、 n 次元空間との関係を一般式で表した。その結果、 $sp^n d^{n-1}$ 混成軌道は、 n 次元空間の n -Cross polytope [5, 6, 8]と対応す

ることを発見した .

表1. n 次元空間の sp^n 混成軌道

n	sp^n	Vertex	Edge	Face	Cell	Geometrical structure	$\cos\theta$	θ
1	sp	2	1	0	0	Line segment	$-\frac{1}{1}$	$180^\circ 00'$
2	sp^2	3	3	1	0	Regular triangle	$-\frac{1}{2}$	$120^\circ 00'$
3	sp^3	4	6	4	1	Regular tetrahedron	$-\frac{1}{3}$	$109^\circ 28'$
4	sp^4	5	10	10	5	Regular 5-Cell (Regular pentachoron)	$-\frac{1}{4}$	$104^\circ 29'$
5	sp^5	6	15	20	15	5-simplex	$-\frac{1}{5}$	$101^\circ 32'$
n	sp^n	$n+1$	$\frac{1}{2!}(n+1) \cdot n$	$\frac{1}{3!}(n+1) \cdot n \cdot (n-1)$	$\frac{1}{4!}(n+1) \cdot n \cdot (n-1)(n-2)$	n -simplex	$-\frac{1}{n}$	$\arccos\theta$

表2. n 次元空間の $sp^n d^{n-1}$ 混成軌道

n	$sp^n d^{n-1}$	Vertex	Edge	Face	Cell	Geometrical structure	θ
2	$sp^2 d$	4	4	0	0	Regular square	$90^\circ 00'$
3	$sp^3 d^2$	6	12	8	0	Regular octahedron	$90^\circ 00'$
4	$sp^4 d^3$	8	24	32	16	Regular 16-Cell (Regular hexadecachoron)	$90^\circ 00'$
5	$sp^5 d^4$	10	40	80	80	5-Cross polytope	$90^\circ 00'$
n	$sp^n d^{n-1}$	$2n$	$\frac{2^2}{2!}n \cdot (n-1)$	$\frac{2^3}{3!}n \cdot (n-1) \cdot (n-2)$	$\frac{2^4}{4!}n \cdot (n-1) \cdot (n-2) \cdot (n-3)$	n -Cross polytope	$90^\circ 00'$

【参考文献】

- [1] H. Hosoya, *J. Mol. Struct.*, **352/353**, 561-565 (1995).
- [2] H. Hosoya, *Int. J. Quantum Chem.*, **64**, 35-42 (1997).
- [3] H. Hosoya, *J. Phys. Chem.*, **A 101**, 418-421 (1997).
- [4] H. Hosoya, *J. Math. Chem.*, **23**, 169-178 (1998).
- [5] H. Hosoya, F. Kido, S. Tokita, *The Mathematics of the Periodic Table*, Nova Science Publishers, New York, 59-74 (2005).
- [6] H. S. M. Coxeter, *Regular Polytopes*, Dover Publications Inc. (1973).
- [7] n -simplex とは, n 次元空間において $n+1$ 個の点によって形成される各次元で最も単純な図形で, $n=1$ は線分 (Line segment), $n=2$ は正三角形 (Regular triangle), $n=3$ は正四面体 (Regular tetrahedron), $n=4$ は正五胞体 (Regular 5-Cell, Regular pentachoron) である .
- [8] n -Cross Polytope とは, n 次元空間において $2n$ 個の点によって形成される図形のことです, $n=2$ は正四角形 (Regular square), $n=3$ は正八面体 (Regular octahedron), $n=4$ は正十六胞体 (Regular 16-Cell, Regular hexadecachoron) である .